

# 消化器内科後期研修

- 研修責任者名 消化器内科部長 福井 弘幸（消化器内科）

- 概要

- ・ 早期胃癌に対する内視鏡下治療では従来の粘膜切除術（EMR）より進んだ治療である粘膜剥離術（ESD）を開始して6年以上になりますが開腹手術をせず早期胃癌を治癒させることが可能となっています。
- ・ 肝癌の治療では局所治療に非常に有用な経皮的ラジオ波焼灼術（RFA）を平成14年より開始しておりすでに180人以上の患者様が治療を受けています。
- ・ 肝臓癌の早期発見・精査には、新病院で導入された16分割マルチスライスCTや1.5テスラ高性能MRIが非常に有用です。超音波学会認定の超音波技師が施行する腹部超音波検査（エコー）などと組み合わせ肝臓癌の早期発見・治療に取り組んでいます。
- ・ 消化器内科・放射線科・消化器外科は互いに連携し、内視鏡治療・超音波下治療・血管内カテーテル治療・開腹手術あるいは抗がん剤治療などあらゆる治療選択に対応しています。
- ・ 平成19年1月からは肝臓・胆道・膵臓外科を専門にする佐々木院長が成人病センターから赴任され、肝胆膵疾患に対してもますます積極的に取り組んでいきます。
- ・ 肝癌発生の抑制に重要な慢性肝炎のインターフェロン治療も多数施行しています。
- ・ 救急医療でも消化器内科関連疾患は多く、胆石発作や急性膵炎、上部消化管出血など多くの救急疾患に対応しています。
- ・ 内視鏡下に胃腫瘍や膵疾患などの穿刺検査・治療を可能にしてくれる超音波内視鏡や、小腸の腫瘍・出血の精査治療に役立つ小腸内視鏡も有し診療に役立っています。
- ・ 食道癌・胃癌の診断に非常に有用なNBI (Narrow Band Imaging) が可能な内視鏡システムも導入し、ますます癌診療に力をいれていきます。

- プログラムの特徴

八尾市立病院は日本消化器病学会・日本消化器内視鏡学会・日本肝臓学会の専門医制度認定施設であり、消化器病学会専門医・消化器内視鏡学会専門医・肝臓専門医を含む7名のスタッフで、早期胃癌・肝癌を含む、上部下部消化管疾患・肝胆道疾患を中心に診療にあたっている。

人口27万八尾市の中核病院であり、2次救急も担っており様々な消化器疾患を経験できる。充実したスタッフと設備を有する内視鏡センターにおける内視鏡治療に力をいれており、早期胃癌に対する切開剥離術を積極的に施行

している。その他あらゆる内視鏡あるいは超音波下処置を習得できる。

慢性肝炎に対するインターフェロン治療から肝臓に対するラジオ波焼灼術といった肝臓の発生予防・治療には従来から熱心に取り組んでいる。

中規模病院の長所として、放射線科や消化器外科医師との交流が盛んで知識・技能の向上につながる。

- 主な設備

完全フィルムレス・ペーパーレスの電子カルテシステム（研修、特に内視鏡・超音波・CT・MRIなどの画像をフル活用する消化器内科の研修には非常に有用です。）

内視鏡センター（上部下部消化管内視鏡室 3、透視設備付消化管内視鏡室 1、回復室、ミーティング室）、肝臓局所治療RFA（Radionics社Cool-tipRFシステム）等

- 取得できる認定・専門医

内科学会認定医・専門医、消化器病学会専門医、消化器内視鏡学会専門医、肝臓学会専門医

- 主な症例数（平成22年1月1日から12月31日まで）

上部消化管内視鏡 3,246件 下部消化管内視鏡 1,641件

EVL・EIS 35件 EUS（FNA含む） 27件

PEG 15件 EST・ERCP・ステント留置術・PTCD 202件

ラジオ波焼灼術 38件 肝生検 12件

インターフェロン治療 30件

- 指導医からのコメント 消化器内科部長 福井弘幸

消化器内科は各臨床科のなかで最も忙しい科のひとつです。しかし消化器疾患を診断し、その最適な治療方針を患者様に提示し実践するという重要な役割を担い、また早期胃癌や肝臓などの治療までも行うやりがいのある診療科です。

2年間の前期研修を終え、医療の基礎的知識や技能は習得されているでしょう。これからは、医師としての今後の進むべき道を考え、またどのような専門的な分野に進みたいのかをよく考えてください。専門的知識や技能を有する臨床医を目指すのなら、また大学病院などでの臨床研究へ進む前にまず消化器内科的な臨床技術を身につけたいと決めたのなら本院消化器内科での後期研修を希望してください。

3年の後期研修ですが、消化器内科では、上部下部消化管内視鏡・腹部超音波検査などの一般検査はもちろん一人で自信を持って施行できるように、ポリペクトミー・消化管疾患止血術・内視鏡下逆行性膵胆管造影乳頭切開術

(ERCP・EST)・経皮経肝胆道ドレナージ(PTCD)・内視鏡下胆道ドレナージ(ERBD)またステント挿入術および超音波内視鏡・肝生検といった手技は指導医のもと自身で施行可能なように、内視鏡下切開剥離術(ESD)・超音波内視鏡下生検(FNA)やラジオ波焼灼術(RFA)などは助手として経験を積んで術者を目指せるようにトレーニングを積んでください。

また、論文や学術書を読んで勉強し学会発表することにより専門的知識を習得し、前期研修医を指導するという異なった立場を自身の知識・技能の復習に役だてましょう